

支援を組み立てるための基本Ⅱ

予防的な支援の組み立て

社会福祉法人 嬉泉

板橋区立赤塚福祉園

主任支援員 北川 裕

この時間で学びたいこと

- これまで行動障害が現れやすい人たちへの支援においては、
「障害特性に合わせた予防的な支援が必要であること」
「支援者が統一した支援をすること」
が大切であることを確認してきました。
- この時間では、基礎研修で学んできた「障害特性」と「特性に基づく合理的配慮」について再度確認します。
- 支援の統一のために必要な視点を再確認し、チームで統一した支援を提供するための手順書の役割について学びます

基礎研修と実践研修

それぞれの目的と履修者の役割

基礎研修について

基礎研修は、行動上の問題を抱えることで、強度行動障害になりやすい、自閉スペクトラム症のある人の困り感や困難さについて、体験も含めて理解すること、また基本的な障害特性を理解して「支援手順書」に沿って適切な支援ができるようになることを目標としています。



強度行動障害の支援においては、個別支援計画や居宅介護計画といった大まかな支援内容では、適切な支援を行うことができません。障害特性に配慮した留意点を整理し、日々の日課と各活動の詳細を決め、時間単位で各活動をどのような流れで行っていくかを詳細に記した「支援手順書」が必要になります。強度行動障害支援者養成研修の基礎研修のゴールは、①「支援手順書」に記されている内容を正確に理解し、手順通りに遵守することです。と同時に、②支援内容の概要や必要な利用者の行動を随時記録し、それをまとめて報告することができることの2点になります。

基礎研修が目指すもの

- ① 「支援の手順書」に書かれている内容とその根拠を理解する
- ② 詳細な手続きまで手順通りにルールを守る
- ③ 支援内容の概要や利用者の行動を記録し報告する

実践研修について

実践研修は、支援現場の経験を踏まえて、支援の内容を自ら組み立て、チーム内に指示を出す人たちを養成することを想定しています。行動上に課題を抱える人たちの支援について、支援の見立てを行い、計画を作成し、チーム内で支援内容を共有していくことができる人は非常に重要です。実践研修では、障害特性についてさらに理解を深め、本人の状態や本人を取り巻く環境のアセスメントを行い、適切な支援方法や環境への配慮を考え、現場の支援者が適切な支援を共通して行うための支援手順書を作成することができるようになることを目指しています。



実践研修のゴールは、サービス管理責任者が作成した個別支援計画を読み込み、詳細な支援手順書を作成し、支援の担当者（基礎研修修了者）にその方法を正確に伝達できることです。日々の支援結果の記録方法についても指示を行い、一定期間の手順で実施した支援結果を取りまとめ、サービス管理責任者と支援の変更や継続について検討することも重要となります。

実践研修が目指すもの

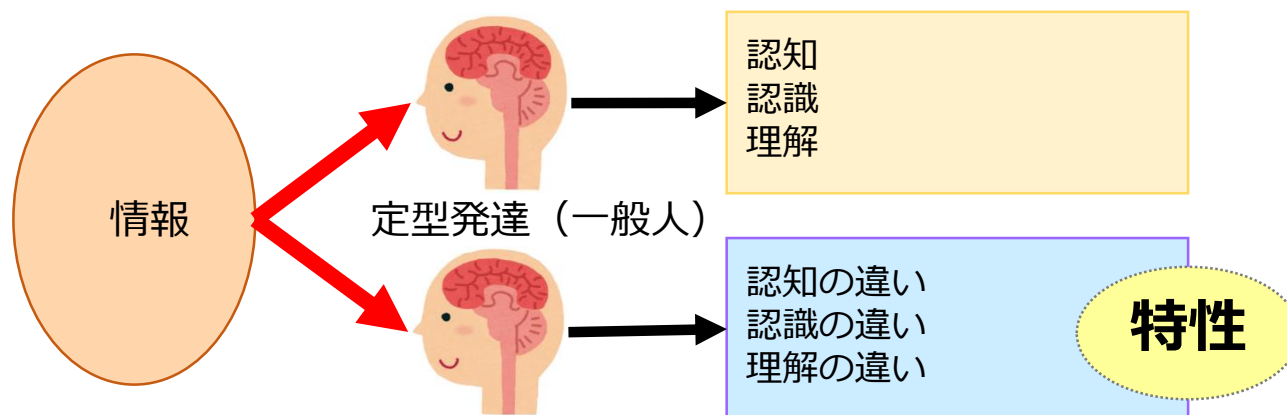
- ① サービス管理責任者が作成した個別支援計画を読み込み、「支援手順書」を作成する
- ② 「支援手順書」のサービス提供方法について正確に伝達し、日々の支援結果の記録方法についても的確に指示する
- ③ 一定期間の手順で実施した支援の結果を取りまとめ、サービス管理責任者と相談し、支援方法の変更や継続について議論する

基礎研修の復習①

障害特性について

「特性」とは何か？

* 脳の器質的な障害により情報処理の仕方が違ってくる



非定型発達（発達に特性のある人）

- * 育て方の問題ではない 「特性」は形-程度は変わっても生涯持続
- * 一般人(定型発達)との「違い」であり「劣っている」訳ではない
- * 環境・対応を変えることで「特性」の表れ方も変化する

なぜ、特性を整理するのか①

- 特性は、「強み」と「弱み」と言い換えることもできるでしょう。「強み」は支援に生かすものであり、「弱み」は支援者が歩み寄るところと言えます。それゆえ、特性の把握においては、「強み」と「弱み」の両面を整理しておくことが重要です。
- 自閉症の方々は少数派です。特にその学習スタイルは、多数派とは大きく異なります。どのような学習スタイルを持っているのかは、特性を把握し整理することで見えてきます。

なぜ、特性を整理するのか②

- 自閉症の人たちの情報処理の特性に合わせた支援を展開することで、自閉症の人たちは適切に学ぶことができ、強度行動障害という状況に陥ることなく、よりよい生活を送ることができます。ですから、私たちは、自閉症の人たちの特性を常に学び、支援の基盤に置く必要があります。
- 配慮点を押さえ、「強み」を整理することがポイントになります。

なぜ、特性を整理するのか③

- 長年の支援や研究等の成果で知的障害や自閉症スペクトラム症の特性は把握できるようになってきた。
- 特性がどのような形で行動として表出されるのかも、把握できるようになってきた。
- 対象者が困っている特性と環境のミスマッチについても、特性に対する合理的配慮として、具体的な支援のアイデアを参考に支援の道筋を計画できるようになってきている。

視点① 社会性の特性

- 対人関係をもつことや維持することの困難性

関心の乏しさ 関心の激しさ 一方通行

- 集団の中でのふるまいに関する困難性

人ごみの苦手さや集団の中での立ち位置

集団の意思の把握

- 年齢相応の常識をとらえることの困難

空気 危険 善悪 . . .

教えられなくても自然に身に付く社会の了解事項

☆ 自分がすべきことが明確であれば、
集団への適応が増す

視点② コミュニケーションの特性

- 発信と理解のアンバランスさ
- 場面や状況によるアンバランスさ
- 非言語コミュニケーションの苦手さ
(表情や視線など)
- 話の全体ニュアンスを理解することの苦手さ
- 言外の意味を把握することの苦手さ

☆ 話し言葉だけではない、たとえば
目に見えるツールを活用することで、
伝達度が増す

視点③ 想像力の特徴

- 想像力とは「目の前に存在しないものを取り扱うこと」
- 漠然とした見通し、予定変更、新規場面の苦手さ
- 結果として、決めごとや興味・関心の偏り
(けれど、それがとても好きなことにもなる)
- 段取りを適切に組む、優先順位をつける苦手さ
- なんとなく、だいたいの苦手さ

☆ 目の前に存在する視覚情報があると
わかりやすさが増す

☆ 自分が興味・関心のある対象への
思いが強みになることも多い

視点④ 感覚の特性

「過敏性と鈍麻・時には過敏、時には鈍磨」

- 聴覚刺激に対する反応
- 視覚刺激に対する反応
- 触覚刺激（皮膚、温度など）に対する反応
- 臭覚刺激に対する反応
- 味覚刺激に対する反応
- その他の刺激に対する反応
 - 前庭覚刺激（揺れなど）に対する反応など

☆感覚に関する反応が、心身の状況や
調子のバロメーターとなることも多い

視点⑤ 認知・記憶の特性

- 複数の情報を同時に処理することの苦手さ
- その人独自の理解のしかた
- 学習に関する不均衡（文字・数・マッチング等）
- 長期記憶やワーキングメモリー（今やっていることの記憶）などの強さと弱さのアンバランスさ
- フラッシュバック（消えない記憶）
- ものごとの関係性をとらえたり、時系列などを整理したりすることの苦手さ

☆ひとつずつの情報や課題を処理することは得意

☆視覚的な情報処理に強みを持っていたり、
視覚的に際立った記憶力を有していたり
することがある

視点⑥ 注意・集中の特性

- 他者と感じ方を共有したり共感したりすることの苦手さ
- 注意を持続することの偏り
- 注意を向ける範囲の偏り
 - 狭く深い
 - 注意を別な方向にむけることの困難
- 視野自体の狭さ、見る方向性の独特さ

☆人とは異なる着眼点を持っている

☆見るべきところや終わりが
明確に示されたら注意を向けやすくなる

視点⑦ 運動・姿勢の特性

- 手指機能の不器用さを示す人も
- 身体の使い方のアンバランスさがある人も
- 姿勢の維持が難しい人も
- 発汗がうまくいかず体温調整が難しい人も

☆ 工芸等の制作活動に長けている人もいる

☆ 水泳やスキー、ランニングなど、同じ方向に進む運動種目に強みを発揮する人もいる

具体的な行動から特性を整理する

- それぞれの特性が重なり合って行動として現れることが多いので、具体的な行動からその背景にある要因として考えられることを整理していくほうがわかりやすいのではないかと思います。
- そのための特性確認シートを紹介します。

診断の基盤に 関係する項目	具体的な行動	【2】その行動の背景にある要因として考えられること (認知・記憶・注意・集中／運動・姿勢などの特性も含む)	【3】支援のアイデア
社会性 の 特 性		一人きりで立ち回ったり自分のペースで過ごすことが苦手 人とかわかることに対する不安が大きい 自分のことを伝えたくて他者へのかわりが一方的になる 相手の立場や気持ちをとらえきれない 集団で起きていることへの関心が薄い 人の多いところが苦手である 密着の人といっしょに活動することが苦手である 周囲から期待される行動を理解するのが苦手である 得意に求められていることと自分に求められていることの区別が難しい 待つことが苦手である 自由時間をどう過ごしていいか悩んでしまう 危険や苦痛、周囲の状況に関係なく、思いついたらすぐに行動する 独特の見方や考え方があり、指示された方法を取り入れにくい 手がかりが変わるとわからなくなり、応用が難しい 文字や数などの理解が難しい いっしょに同じものを見て共感的に気持ちを通わせることが難しい ひとつの活動への集中を持続することが難しい いつまでどのくらいやるのか、終わりの理解が難しい どこを見たらいいか、どこで活動したらいいかわからない 見ている範囲が狭い（目に入っていないところがある） 見る方向が定まらない 別のところに視線を移すことが難しい	生かせる強みがある（※欄から） 自分と周囲との関係や感情などを見える形で伝える 自分の心と体を休められる場所を用意する 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかるように伝える 目指すべき場所を強調する 一つの場所を多目的に使うようにする 「どうやって」「どうなったら終わり」「次に何をやる」をわかるように工夫する 困ったときに誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える 環境を整え、刺激を少なくする 活動の量やシグなどの工夫をする 椅子や材料などの配置を工夫する
コミュ ニ ケー ション の 特 性		話し言葉の理解が難しい 抽象的であいまいな表現の理解が難しい 言葉を処理するに時間がかかる 言葉通りの理解をする／冗談や慣用句などの理解が難しい 相手の顔の全体ニュアンスを理解することが苦手 相手の表情や声調、声質などから意図をとらえることが苦手である かんじや感情、手書きの文字のニュアンスなどを読み取ることが苦手である 相手の感情や意図がわからない 誰かに伝えたいことがわからない やりとりをするのが苦手である 理解と教誨の両方をするのが苦手である 場面や状況が変化する中で話を続けることが苦手である	生かせる強みがある（※欄から） 本人が使いやすいツール（文庫、単語、絵、写真、シンボル、具体物等）を提供する 伝える量に配慮する 伝える速さを調整する 理解できるまで待つ 環境を整え、刺激を少なくする たれに、どうやって伝えるかを具体的に示す 思ったときに思い出す工夫を用意する 会話も見えるツールで支援する 本人の処理速度に合わせて会話の場の設定をする
想像 力 の 特 性		見えないものの理解が難しい 自分のルールを変えられることに強い拒否を感じる 覚悟しが持てないことに不安を感じる 目標が変わる、担当者が変わる 活動の途中で中断されることが多い 初めての場面で苦手である 段取りを組んだり、優先順位をつけたりすることが苦手である なんとなく、たいたいなどのイメージを持ちにくい 興味関心が狭く強く、興味の対象に執着的なになることもある 細かいことが気になって抜けられなくなってしまう 同じ場所に置きたい、同じ行動を繰り返したいなどのこだわりがある 情報の多いものの処理が苦手である 複数の情報を同時に処理することが苦手である 今あるものはきつすぎるのにとすぐに忘れてしまう 過去の出来事と比べてしまう 部分的な処理が強く全体の理解が苦手である ものごとの関連性をとらえにくい	生かせる強みがある（※欄から） 最初から正しい方法で準備をする 予告を視覚的に行い、成功につながる手がかりを提供する 形でも確認できるように、手がかりが見えるようにする 変更の考え方を統一する 情報の提示なのか活動の組織なのかを明確にする 環境を整え、刺激を少なくする 本人の興味関心に合わせた提示（ごほうびの活用）を行う ごほうび等を活用して活動に興味をもたせる 変わらないものは蓄積化できるようにする 形でも確認できるように、手がかりが見えるようにする その他
感覚 の 特 性		聴覚の過敏や鈍麻がある（特定の音が嫌い、特定の音を大音量で聞きたいなど） 視覚の過敏や鈍麻がある（まぶしく感じる、キラキラしたものが見たくなくなるなど） 触覚の過敏や鈍麻がある（爪切りなどに強い痛みを感じる、逆に痛みに鈍感など） 嗅覚の過敏や鈍麻がある（匂い嫌い、特定の匂いがある、刺激臭を好むなど） 味覚の過敏や鈍麻がある（苦しい感覚がある、特定の刺激の強い味を好むなど） 目が回りにくい、乗り物酔いが頻度にある、体を揺らしたがる、高い場所が好きなど 汗をかきにくく体温調節が苦手、気圧の変化に弱いなど カ加減がうまくできないなど 疲労やストレスが感覚の過敏や鈍麻に影響をもたらす つまむなど細かい手先の使い方が不器用である 両手と左手を協調させて操作することが苦手である 道具を上手に使うことが難しい 立位や座位など、姿勢の維持が難しい 身体の動かし方がぎこちない 球技などの運動が苦手である 身体模倣が上手にできない	生かせる強みがある（※欄から） 必要な刺激は保証する 苦手な刺激を少なくするための配慮（イヤーマフ・サングラスなど）をする 他刺激で代用をするなど、強く危険な刺激や好き過ぎる刺激への配慮を講じる 避難場所の確保を行う その他
※得意なこと・強み・ できること・好きなことなど			

どんな違いがあって、
何に困ってるの？

→障害特性

基礎研修の復習②

特性に基づく合理的配慮について

近年の障害者施策の変化

- 障害者基本法の改正（平成23年8月）

全ての国民が、**障害の有無にかかわらず、等しく基本的人権を享有するかけがえない個人として尊重されるものである**との理念にのっとり、全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、**相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現するため**、障害者の自立及び社会参加の支援等のための施策に関し、基本原則を定め、及び国、地方公共団体等の責務を明らかにするとともに、障害者の自立及び社会参加の支援等のための施策の基本となる事項を定めること等により、障害者の自立及び社会参加の支援等のための施策を総合的かつ計画的に推進することを目的とする。

障害者権利条約を日本が批准

みんなちがってみんな一緒！

平成25年12月4日国会本議会で批准の承認案が可決
平成26年1月20日、140番目の締結国となった

私たち抜きに私たちの事を決めないで！

本人の声を聴き、本人の意思決定への支援
障害がある人もない人も共に安心して暮らす地域づくり
ノーマライゼーションの社会の実現に向けて！

障害者権利条約とは

- 「障害者権利条約」とは、平成18年に国連で採択された国際条約
- 障がいのある人を「権利の主体」と捉え、生活のさまざまな場面において障がいのある人の人権（尊厳）の尊重を批准国へ求めている
- この条約は、人として当たり前の権利と自由を、障害のある人にもない人にも同じように認め、障害者が社会の一員として尊厳をもって生活することを目的としたもの。
- 条約の原則の一つが障害に基づく差別をなくす事。

障害者権利条約批准に向けた法律の改訂

障害者差別解消法ってどんな法律？

26の本則の条文と付則からできています。

1. **障害を理由**に差別的取り扱いや権利侵害をしてはいけない。
2. 社会的障壁を取り除くための**合理的な配慮**をすること。
3. 国は差別や権利侵害を防止するための啓発や知識を広める為の取り組みを行わなければならない。

※障害のない人との平等な機会の保障（＝差別の禁止）

※「何が差別なのか」きちんと判断できる「ものさし」

障害者差別解消法

【合理的配慮】

- ・ 入り口の段差をなくす。
- ・ 漢字に振り仮名をつける。長い文章を短くする。イラスト等を使って補足。
- ・ 仕事や入浴等生活に必要な事の手順を分かりやすく説明する。
スケジュールボード等を使い視覚的に示す等
- ・ 刺激を軽減する：光、音、人、声等への配慮

※一人ひとりに必要な、その状況に合わせた変更や調整等を、**障害特性や重さに合わせた工夫**する事。

予算、労力等の負担がかかりすぎない範囲で配慮する。

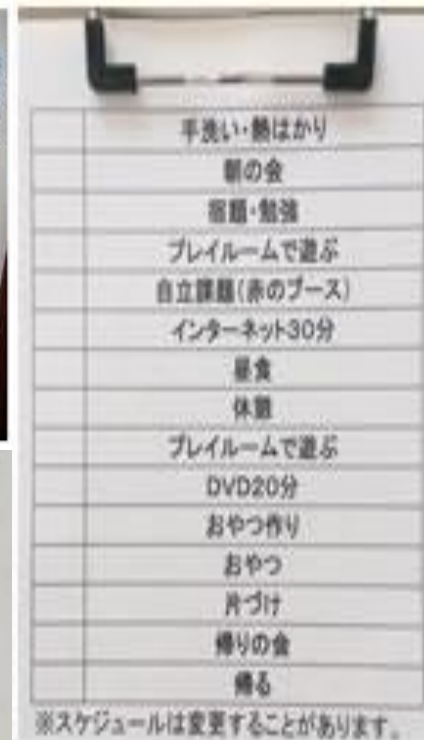
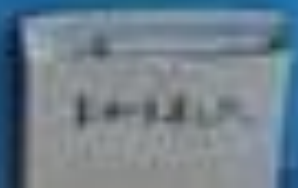
合理的配慮の定義

合理的配慮とは、「障害者が他の者と平等にすべての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための**必要かつ適当な変更及び調整**であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、**均衡を失した又は過度の負担を課さないもの**をいう

自閉症の障害特性に対する 合理的配慮の例

時間の視点

- どんな流れで生活するのかという理解を助ける。
- 言われるがまま（または好き放題）ではなく、自分で適切に情報をキャッチし行動できることを大事にする。



場所の視点

- この場所では何をするのかという理解を助ける。
 - 整理整頓は基本中の基本
 - エリア（境界）を明確に
 - 場所と活動とが 1 対 1 対応できれば理想だが…
- 負の刺激に配慮するために空間を整える。
 - 負の刺激を統制・制御（見せない・感じない）



方法の視点




- 「何を」「どのくらい（どうなれば終了か）」
「どうやって」「次は」という理解を助けるために
－やることの内容や数や順序が違ってても進め方は
同じという“システム”を提示する。
- 見てすぐにわかる情報を提示するために
 - －必要な情報に注目しやすくする工夫
 - －見るだけで何をすれば良いかがわかる
 - －情報や材料が見やすい・扱いやすい



きょうしつ に ついたら



ぜんぶ できてから いっぱいあそぼう！

	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12 
13	14	15	16
17	18	19	20
21	22	23	24 









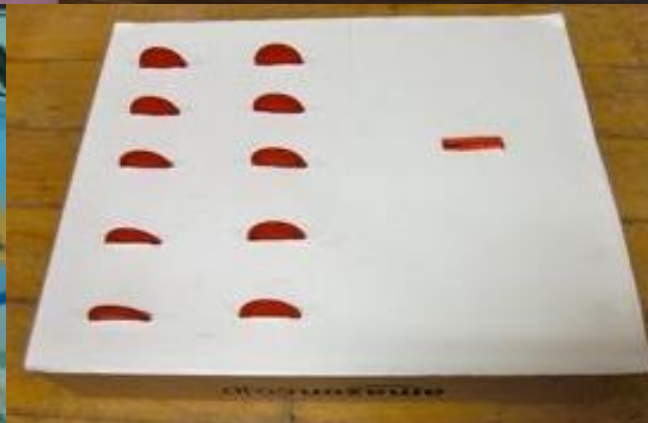
★ ようい

1. 水色かご
2. ほうちょう

★ やりかた

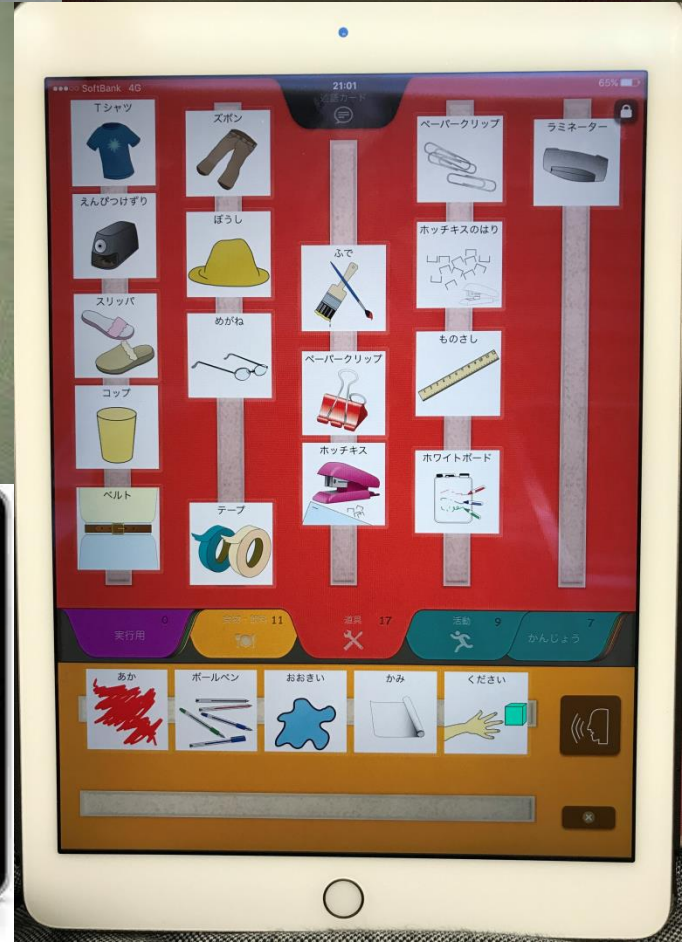
1. 1たば 切る
2. カゴに おく
3. 2箱めのネギ 反対むきに おく
4. カゴを完成品におく
5. 水色かご よういする
6. ほうちょうとまな板をカゴに入れる
7. ほうちょうとまな板をあらう

★ もどす

やりとりの視点

- 伝え合いわかり合うコミュニケーションのために
 - 表出言語の有無にかかわらず、
伝えるタイミングが分からない
適切なセリフが分からない
他者に働きかけることで問題解決を図るという
方法があることを知らない 等々
 - コミュニケーションの手続きを視覚的に示し、
コミュニケーションの成功体験をお膳立てする
サポートが必要



いただきます

はんぶんにして

ごはん

すこしにして

おかず

のこします

おかわりください

いりません

おちやくください

てつだってください

たくさんください

ごちそうさまでした

ソーシャルストーリー

いまの きみで いいんだよ

女の子たちが 楽しそうに おはなしを しています。

『なにを しているのかな?』 ぼくは 気になります。

『ぼくも なかまに入りたいなあ。』 そうおもうことがあります。

そんなとき どうすればいいのか ぼくは いいほうほうを

しています。

こえを かければいいのです。

「～さん。なにしているの?」 って。

ぼくは いつも そうしようと おもっています。

1 いいたいことがあるとき、
こたえがわかったときは?



どうすれば いいの?

終了です

予防的支援とは？

- 本人の特性に基づいた支援を整えることにより、強度行動障害に対して予防的な支援を行うことが可能になります。
- 予防的な支援は、特性を把握し苦手な環境に配慮し、得意な環境を生かしていく事が基本となります。キーワードは「合理的配慮」「構造化（環境を整えること）」です。

診断の基盤に 関係する項目	具体的な行動	【2】その行動の背景にある要因として考えられること (認知・記憶・注意・集中／運動・姿勢などの特性も含む)	【3】支援のアイデア
社会性 の 特 性		一人で行っていることや自分のペースで過ごすことを好む 人とかわかることに対する不安が大きい 自分のことを伝えたくて他者へのかかわりが一方的になる 相手の立場や気持ちをとらえきれない 集団で起きていることへの関心が薄い 人の多いところが苦手である 多数の人といっしょに活動することが苦手である 集団から期待される行動を理解することが苦手である 他者に求められていることと自分に求められていることの区別が難しい 待つことが苦手である 自由時間をどう過ごしていいか悩んでしまう 危険や審美、周囲の状況に関係なく、思いついたらすぐに行動する 独特の見方や考え方があり、指示された方法を取り入れにくい 手がかりが変わるとわからなくなり、応用が難しい 文字や数などの理解が難しい いっしょに同じものを見て共感的に気持ちを通わせることが難しい ひとつの活動への集中を持続することが難しい いつまでどのくらいやるのか、終わりの理解が難しい どこを見たらいいか、どこで活動したらいいかわからない 見ている範囲が狭い（目に入っていないところがある） 見る方向が定まらない 別のところに視点を移すことが難しい	生かせる強みがある（＋観から） 自分と周囲との関係や感情などを見える形で伝える 自分の心と体を休められる場所を用意する 「いつ」「どこで」「何を」の情報を提供できるように伝える 目指すべき場所を強調する 一つの場所を多目的に使うようにする 「どうやって」「どうなったら終わり」「次に何をやる」をわかるように工夫する 困ったときに誰にどう伝えたらいいかを具体的に伝える 環境を整え、刺激を少なくする 活動の量やシグなどの工夫をする 椅子や材料などの配置を工夫する
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン の 特 性		話し言葉の理解が難しい 抽象的でない言葉の理解が難しい 言葉を処理するのに時間がかかる 言葉通りの理解をする／冗談や慣用句などの理解が難しい 相手の話の全体ニュアンスを理解することが難しい 相手の表情や視線、声調などから意図をとらえることが苦手である かんしゃくや相手の手を引く等の表現があっても、表現手段が少ない 相手の言葉を繰り返したりコマースのフレーズは覚えても、言葉で伝えられない 誰に伝えていいかわからない やりとりをすること自体の意味がわからない 理解と発言のアンバランスさが大きい 場面や状況が変わるとコミュニケーションが安定しない	生かせる強みがある（＋観から） 本人が使いやすいツール（文庫、単語、絵、写真、シンボル、具体物等）を提供する 伝える量に配慮する 伝える速さを調整する 理解できるまで待つ 環境を整え、刺激を少なくする たれに、どうやって伝えるかを具体的に示す 思えたときに思い出す工夫を用意する 会話も見える 本人の処理速度
想 像 力 の 特 性		見えないものの理解が難しい 自分のルールを変えられることに強い拒否を感じる 難しさが持てないことに不安を感じる 目標が変わる、担当者が変わる、場所が変わるなどの変更に弱い 活動の途中で止められることに抵抗を感じる 初めての場面で苦手である 段取りを組んだり、優先順位をつけたりすることが苦手である なんとなく、したいなどのイメージを持ちにくい 興味関心が狭くて強く、興味の対象に執着的になることもある 細かいことが気になって振り回れてしまう 同じ場所に置きたい、同じ行動を繰り返したいなどのこだわりがある 情報の多いものの処理が苦手である 複数の情報を同時に処理することが苦手である 今あるはさききのこととすくすく忘れてしまう 活動のあるべきことについてずっと覚えていて、フラッシュバックすることがある 部分的な処理が強く全体の理解が苦手である ちのことの関連性をとらえにくい	生かせる強みがある（＋観から） 最初から正しい方法で準備する 予告を視覚的に示し、成功につながる手がかりを提供する 忘れても確認できるように、手がかりが見えるようにする 変更の使い方を統一する 順番の指示などの活動の進捗のわかるようにする 環境を整え、刺激を少なくする 本人の興味関心に合わせた提示（ごほうびの活用）を行う ごほうび等を活用して活動に興味をもたせる 変わらないものは自動化できるようにする 忘れても確認できるように、手がかりが見えるようにする その他
感 覚 の 特 性		聴覚の過敏や鈍麻がある（特定の音が嫌い、特定の音を大音量で聞きたいなど） 視覚の過敏や鈍麻がある（まぶしく感じる、キラキラしたものが見たくなくなるなど） 触覚の過敏や鈍麻がある（爪切りなどに強い痛みを感じる、逆に痛みに鈍感など） 嗅覚の過敏や鈍麻がある（匂いに強い臭いがある、刺激臭を好むなど） 味覚の過敏や鈍麻がある（苦しい偏食がある、特定の刺激の強い味を好むなど） 目が回りにくい、乗り物酔い／眩暈に強い、体を揺らしたがる、高い場所が好きなど 汗をかきにくく体温調節が苦手、気圧の変化に弱いなど カ加減がうまくできないなど 疲労やストレスが感覚の過敏や鈍麻に影響をもたらす つまむなど細かい手先の使い方が不得手である 右手と左手を協調させて操作することが苦手である 道具を上手に使うことが難しい 立位や座位など、姿勢の維持が難しい 身体が動かし方がわからない 球技などの運動が苦手である 身体模倣が上手にできない	生かせる強みがある（＋観から） 必要な刺激は保証する 苦手な刺激を少なくするための配慮（イヤーマフ、サングラスなど）をする 他刺激で代用をするなど、強く危険な刺激や好き過ぎる刺激への配慮を講じる 避難場所の確保を行う その他
☆得意なこと・強み・ できること・好きなことなど			

障害特性に対する
必要な支援や配慮

支援手順書の意義を理解する
チームで統一した支援をするために

「支援手順書」の意義

行動障害が軽減し、落ち着くことで、その場での生活を継続させるために「支援手順書」があるわけではない



行動障害の軽減＝それがゴールではない



かかわる支援者が統一した対応を行うことで行動障害が軽減し、地域での生活を実現させるために「支援手順書」がある

「支援手順書」の例 | (文字)

時間	活動	サービス手順
9:30-10:00	来所	【スケジュール1：朝の準備】 静養室（スケジュール）→静養室（着替え）→静養室（休憩）→アラーム（9:50）→作業室
10:00-10:45	班別活動	【スケジュール2：DVD組み立て×2回】 作業室（作業15分）→静養室（休憩10分）→アラーム→トイレ→静養室（スケジュール）→作業室（作業15分）
10:45-11:00	お茶休憩	【スケジュール3：お茶休憩】 作業室→静養室（スケジュール）→手洗い→静養室（お茶休憩）→アラーム→作業室
11:00-11:45	班別活動	【スケジュール4：DVD組み立て×2回】 作業室（作業15分）→静養室（休憩10分）→アラーム→トイレ→静養室（スケジュール）→作業室（作業15分）→静養室
11:45-12:45	昼食 昼休み	【スケジュール5：昼食】 静養室（スケジュール）→手洗い→静養室（スケジュール）→食堂（昼食）→静養室（休憩）

【連絡事項】

- 活動の切り替えは静養室で行います。原則として活動ごとにスケジュールを確認します。
- 静養室での休憩の終わりはアラームで知らせます。
- ロッカーは静養室に移動しました。着替えは静養室で行ってください。
- 熊谷さんと動線が重ならないように注意してください（特に朝、休憩時間）
- 自立課題終了後、帰りの準備をするまでに20分間の休憩が入ります。

【問合せ事項】

「支援手順書」と社会参加の関係 | 「支援手順書なし」

知的障害を伴う自閉スペクトラム症のAさん



配慮されない環境、支援のもとでは・・・

「支援手順書」なし



「迷う」「混乱する」「すべきことが分からない」



適切な手段が分からない、不快適な環境



激しい行動で自分の気持ちを表す＝強度行動障害



Aさんの社会参加が阻害されてしまう

支援手順書と社会参加の関係 | 「支援手順書」あり

知的障害を伴う自閉スペクトラム症のAさん



配慮された環境・支援のもとでは・・・



迷わない、混乱しない、すべきことが分かる

「支援手順書」あり



快適な環境

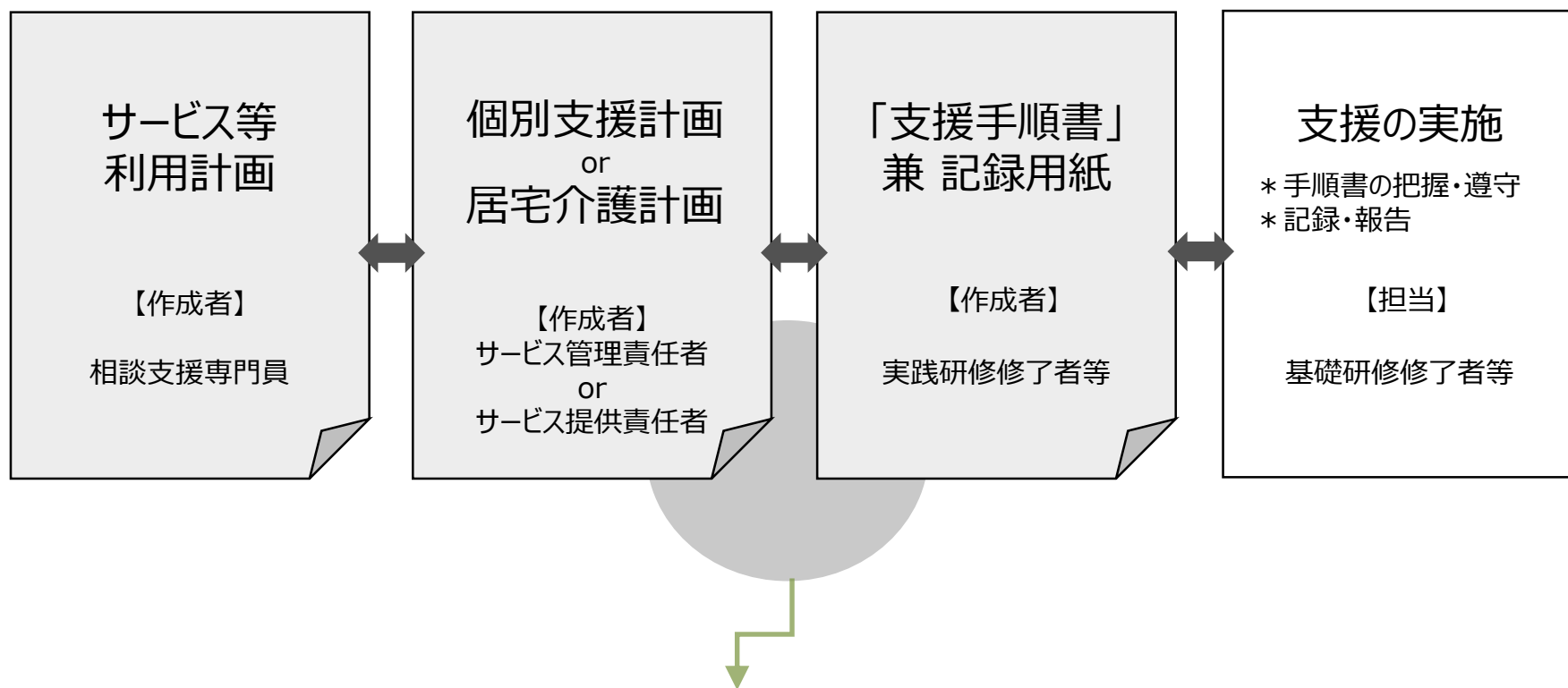


適切な行動、充実した活動、安定した生活



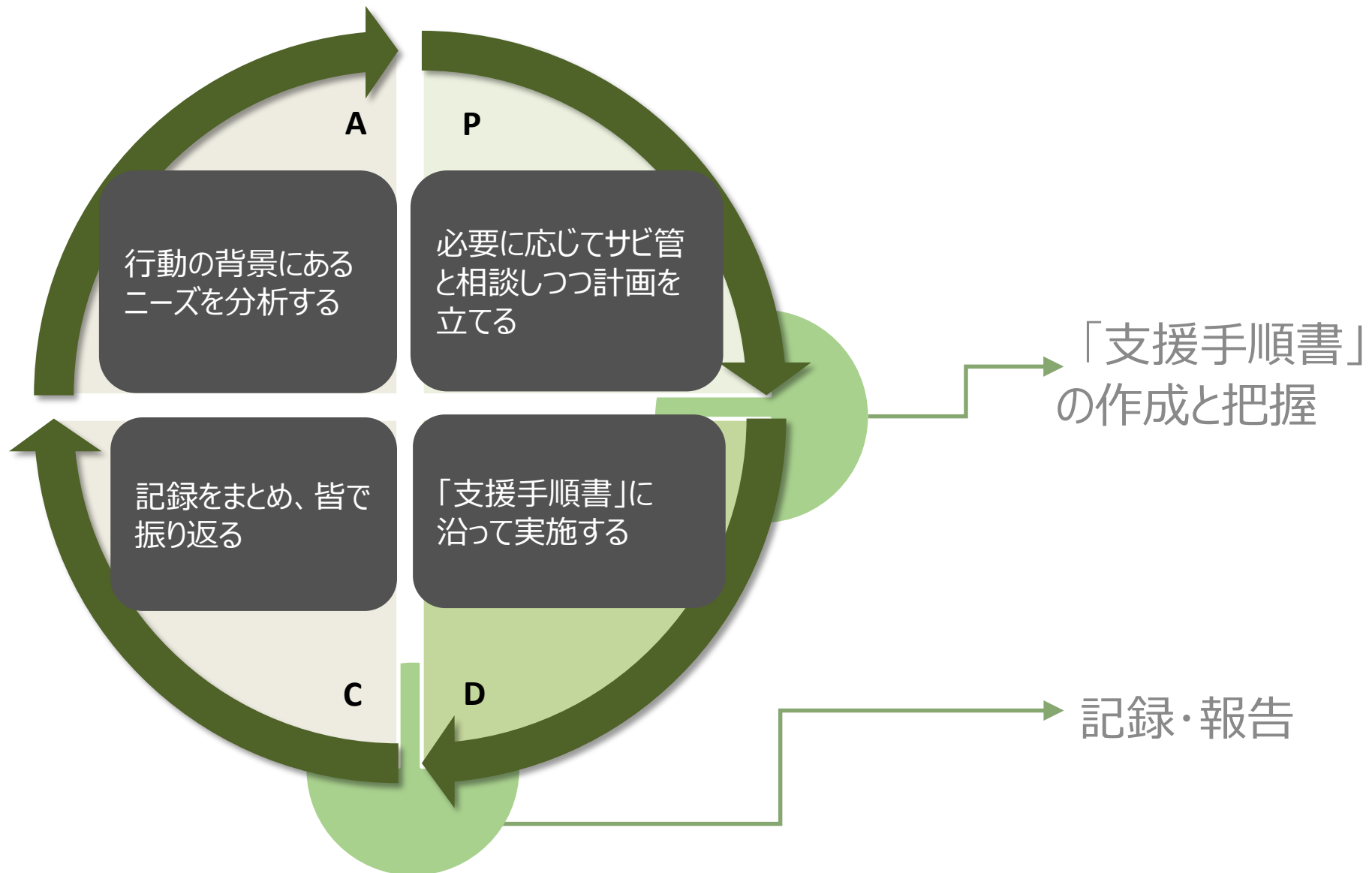
Aさんの社会参加が進む

個別支援計画と支援手順書の関係

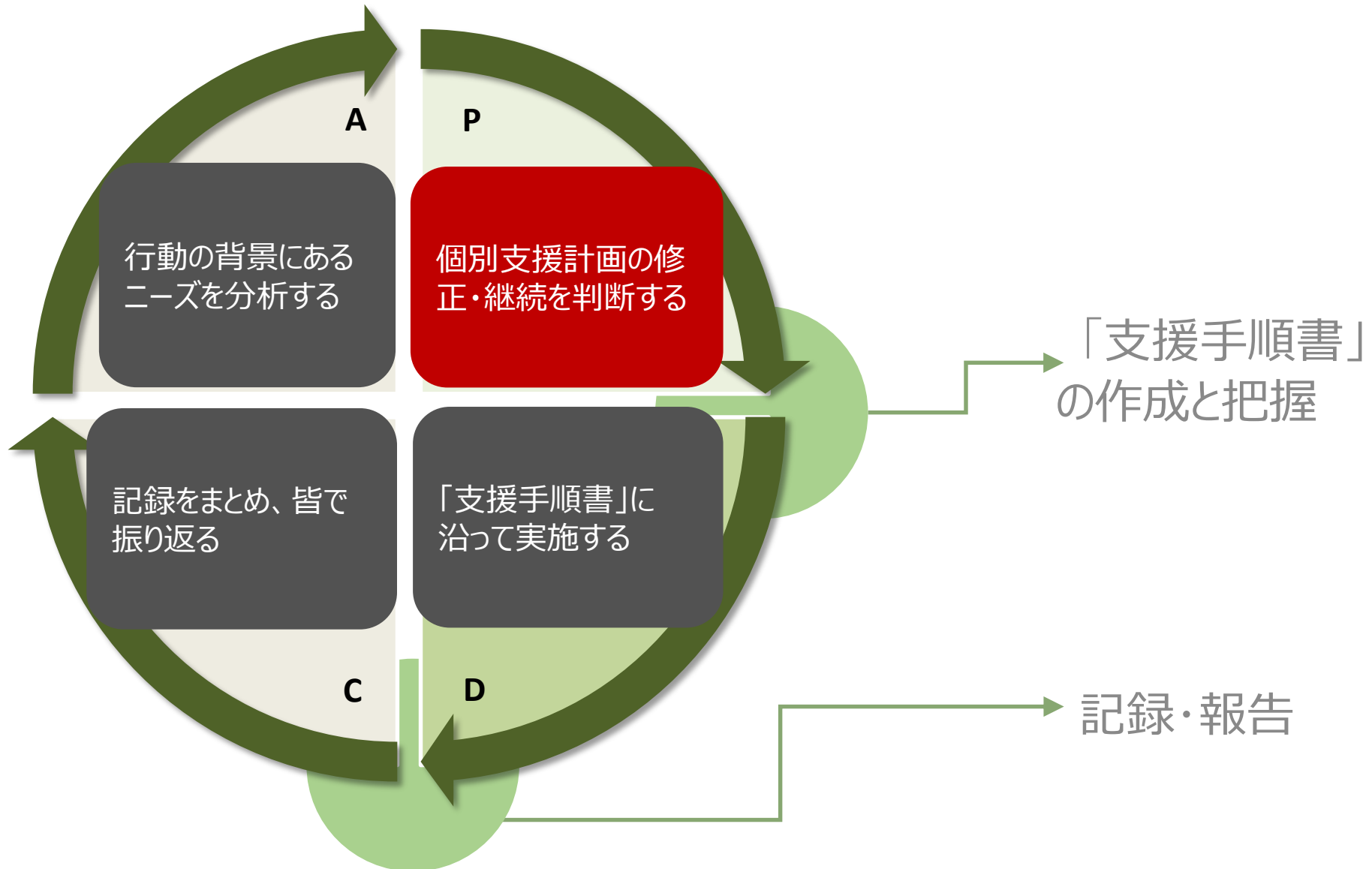


強度行動障害の支援においては、個別支援計画や居宅支援計画といった大まかな支援内容では、適切な支援を行うことが難しい。障害特性に配慮した留意点を整理し、日々の日課や各活動の詳細を決め、時間単位で各活動をどのような流れで行っていくかを詳細に記した「支援手順書」が必要となる。

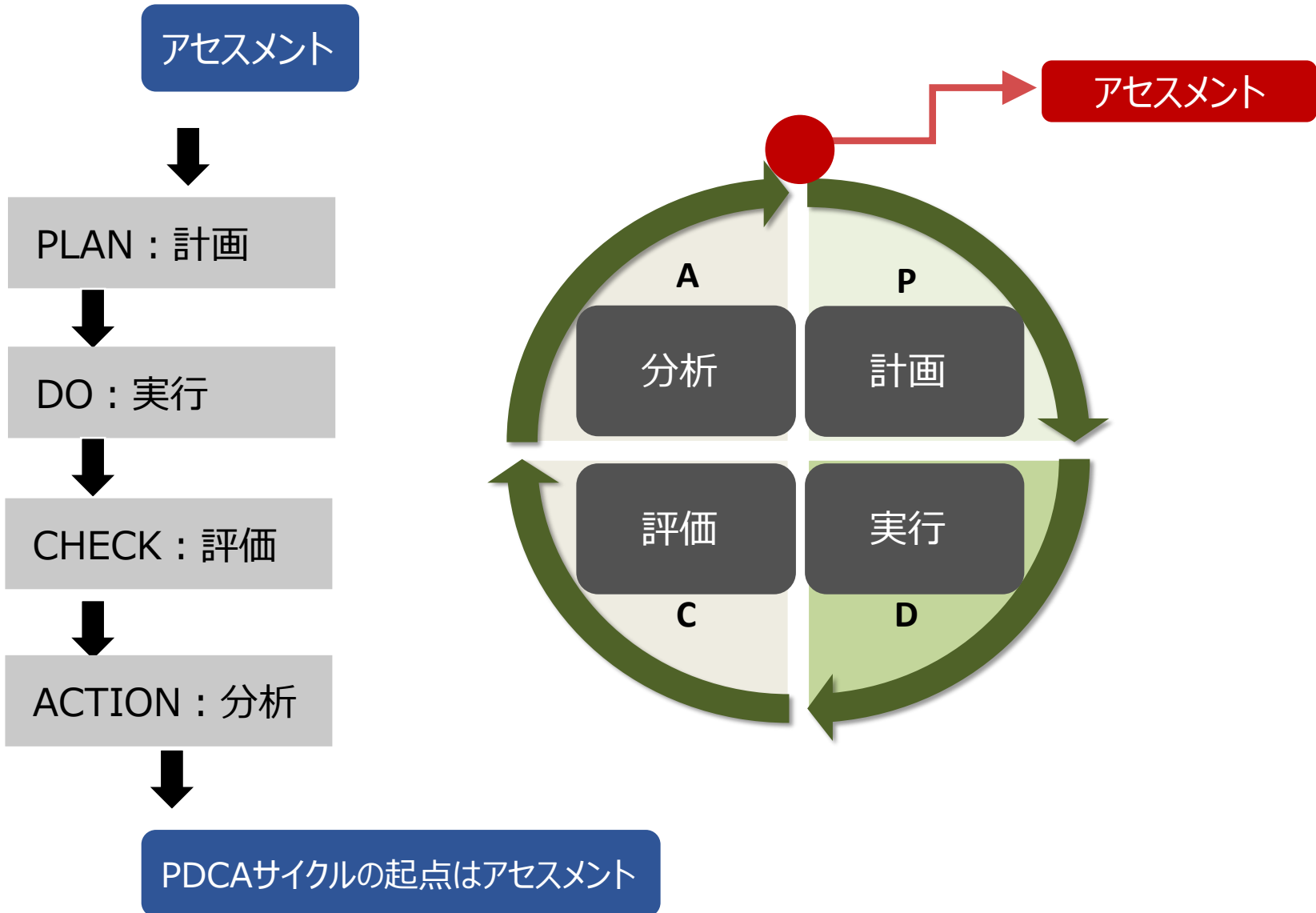
P D C Aサイクルの流れ



P D C Aサイクルの流れ | 2 周目以降



PDCAサイクル | 起点はアセスメント



アセスメントをする目的－①

目的① → 支援計画を個別化し、個別支援計画を作成するため

- 医学的な診断（知的障害や自閉スペクトラム症）の次に、その診断名がどのような特性を持っているか、アセスメントしていく必要がある
- どのような特性があるのか、その特性があることによって、発達上や行動上の問題にどういふことがあるのか、一人ひとりについて知っていく必要がある
- 障害特性の理解に基づいたアセスメントが必要
→ 障害特性についてよく理解していなければ、アセスメントはできない
- 支援計画を個別化していくためには、一人ひとりの違いを見定めることが必要

アセスメントをする目的－②

目的② → アセスメントの結果を共有し、チームで取り組むため

- チームで取り組むためにも、アセスメント結果の共有が必要
- 自閉スペクトラム症の人の支援で特に大切なことは、統一した支援を提供することが大切
- そのためには、チームで仕事をする時に、バラバラなやり方にならないように配慮しなければならない→そのためにアセスメントがある
- その人の苦手さに対し、こういう苦手さを持っているため、何をどのように支援すべきか決まった形で示すことができれば(支援手順書)、共有して支援を提供することができる
- アセスメントをしないと、人の見方によって、対応が変わっていくということが起こってしまう

アセスメントをする目的－③

目的③ → 支援の目標や提供するサービスを決めるため

- その人にとって必要なことを個別化する
- 「支援手順書」は、一人の思いやその場の思いつきではなく、客観性のある資料に基づいて作成される必要がある
- 提供した支援の効果を検証する
→ 「支援手順書」の根拠やその方法には妥当性があったのか（客観的な視点、合理的な視点）
- エビデンスの重要性

アセスメントをする目的－④

目的④ → 適切な支援を提供するため

- エビデンスに基づかない的外れな支援を一生懸命やっていて、「これだけ頑張っているんだから」と言い訳をするのはもう昔のはなし
- 適切な支援を、適切なタイミングで、適切な量を提供できるように心がけていくためには、アセスメントが必要でありかつ重要である

P D C A サイクル

- PLAN→アセスメント情報に基づき、一人ひとりの違いを見定め、根拠（エビデンス）に基づいた客観性ある支援の計画を作成する
 - DO→計画したことを実施する（適切なアセスメントを踏まえて実施）
 - 計画を意識して支援する
 - 支援記録を残す（再評価＝再アセスメントをするために）
 - CHECK→支援計画実施後の結果を評価する
 - 記録に基づいて、客観的に評価する
 - ACTION→評価に基づいて分析する
 - 次の支援計画を立案する
- ◇ P D C A サイクルをグルグルと回して支援計画の最善を目指していく

チームアプローチの重要性

- チームで仕事をする時に「支援の手順」を作成することで、混乱がないように同じ伝え方をすることができる
- チームで仕事をする時は、関わりをなるべく変化させないことが大切
- 変化の適応が苦手、抽象的概念の取り扱いが苦手というように言われている自閉スペクトラム症の方は、支援者が提供する支援の微妙なズレでも混乱することを考慮する
- ある人の支援と、違う人の支援は微妙に異なるということで、利用者は確実に混乱してしまう
- そのようなことを防ぐためにも、アセスメントを行うことで、支援する側が「支援手順書」を整理し、統一した支援を提供することが大切

「支援手順書」の役割と支援の統一

- 個別支援計画といった大まかな支援内容では、支援計画を行うことは難しい
- 障害特性に配慮した留意点を整理し、日々の日課や各活動の詳細を決め、時間単位で各活動をどのような流れで詳細に行っていくかを詳細に記した「支援手順書」が必要となる
- 「支援手順書」は客観性のある資料に基づいて提供される必要がある
- 支援手順書の根拠やその方法には妥当性があったのか（客観的な視点、合理的な視点について根拠はあったのか、）→エビデンスが求められる
- チームで仕事をする時に、「支援の手順」を作成することで、混乱がないように同じ伝え方をすることができる
→「支援手順書」を遵守する